

達者です ③7

農業一筋闘志まんまん

藤野 力 さん

76歳 (小原区)

「るのが好きなんですよ」と言うが、当時は米作りで、自宅に年間6千人もの見学者があったという。

「今は計算したら、米ではやっていけません」それに鹿の被害も大きく、「柵があっても飛び越えて、大事に育てた作物を食べてしまう。みんな本当に困っています」

花づくりも手がけているが、今では息子さんに経営を任せており、手伝いが主とか。「園芸は、一つの作物の真髓を把握できれば、他のものにも応用できます。息子と色々なところで見て聞いて研究しました。勉強しなければもうかりません。おかげで車を2台つぶしましたよ」と笑う。「これからも、息子と一緒にいいバラづくりをめざしたいですね。働ける間はがんばりますよ」と闘志まんまん。

わくわく ひろば

市民の皆さんのページです
あなたの情報で、ひろばは
さらにイキイキ ☎ ②31117



中村 アサコさん
(郷 区)

エンジン 仲間達

③4

「出前、いっちよう」

三文ボランティアグループ

三文ボランティアが発足して10年。農村のお婆ちゃんが集まりです。初めは、舞台上上がる前から足はブルブル震える有様でした。健康・美容・ボケ防止・輪づくりと、和気あいあいの雰囲気です。年に一度は慰問に行き、老人福祉施設から声がかかると勇ん



で出向きます。1月末にも恵光苑・サンライズ21に。マジック、大正琴、素踊り、詩舞。また、昔の物語を劇にしたり、冗談を言って笑わせながら苑生さんと歌を歌い、皆さんがかなわぬ手つきで盛大な拍手を送ってくれます。口々に「ア一本当に良かった。また来てね、待ちよるよ」と握手を交わし、ありがとうの言葉を背にして、メンバーは年を忘れ活気づきます。

②7

ちよっと小耳にはさんだ

子ども達の健やかな成長に

藍染めが役立てばうれしい!

前田 喜美子 さん

(上川西2区)



「藍を育てるには手間がかかります。藍染めも難しくはありません。8月の藍染め時に参加希望でもあれば一緒に染めてみたいですね。歓迎します。その時にはシートに藍染めを施し、寝たきりのお年寄りにお届けできればとも考えています。」

「県内にも『藍の会』が発足し、今年から藍栽培への取り組みが始まりました。子ども達が健やかに育つために、藍染めが役に立てばうれしいですね。」

「6年前の藍染め作家講演会で、藍染めシートは床ずれ防止に、肌着はアトピー性皮膚炎に効果があるなど、藍染めの薬効性を聞き強く興味を覚えました。知人にスプーン1杯の種をもらい植えたのがきっかけです」

初年度の木綿への生葉染めは失敗。絹染めと同じ手法では木綿は染まらないことを知る。今は木綿の藍染めも可能という。今年も、上川西2区子ども会も参加し5月に秋里唯雄さんの休耕田に苗を移植、7月には1番刈り、そして夏休み期間に藍染めを計画。持ち寄ったTシャツやマフラーが、優しいコバルト



上川西2区子ども会で藍の移植